歌唱表現指導法研究Ⅰ：コンコーネ50番の学習

宮下　　茂*
（平成23年10月31日受理）

Methods of Singing, the Guide Method ResearchⅠ：A Study of Concone No.50

Shigeru MIYASHITA*
(Received October 31, 2011)

はじめに

筆者は，平成12年より長崎大学教育学部の中学校教員を目指す音楽専攻学生への声楽授業を行ってきた。当初の授業科目名は「声楽Ⅰ,Ⅱ」「声楽演奏法Ⅰ,Ⅱ」等であったが，平成16年より名称と内容との整合性を図り，「声楽」という専門教育的な名称を学校教育で一般的な「歌唱」に改め，授業科目名を「声楽a,b」（現在は「声楽」）「歌唱表現法Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」とした。これにより，声楽の基礎を学んだ後に歌唱表現を学ぶ授業へと続き，声楽を専門として学ぶ授業から広く歌唱表現を学ぶ授業となった。

名称と授業内容の変更に限らず，受講学生の様子もこの10年で変化してきた。

以前の受講生は音楽の教員になることを目指した学生がほとんどであり，音楽実技の習得意識が強く，声楽分野の専門性を深く学ぼうとする学生も見られた。しかし，今日では小学校や幼稚園の教員を目指す傍らに受講する学生も多く加わり，１コマの授業に対し多くの初心者学生を指導することとなり，専門的な内容に踏み込むような指導が困難になってきた。

授業では，基礎的な発声法や読譜など，初心者への初歩的な内容の指導が必要となり，短時間の内に多くの内容を教える工夫も必要となってきた。

本論文では，筆者が行ってきた授業での指導内容と指導に至るまでの考え等を述べる。それにより筆者の考えを明らかとし，歌唱に於ける表現方法の指導の可能性や課題等を考察する。

コンコーネ50番を教材とした歌唱指導の工夫

以前は，多くの受講生が大学入学前に声楽を多少学んでおり，まったくの初心者の学生はあまりいなかった。しかし，前述のように音楽専攻以外の受講生も増え，声楽初心者が半数以上を占めることも珍しくなくなった。その為，授業では「発声練習」「練習曲の歌

唱」「楽曲の歌唱」等を行っているが，初心者のための姿勢や発声の指導に費やす時間が増えてきている。そして，練習曲の学習が重要になってきた。その練習曲での学習が，ソルフェージュと発声練習，歌唱表現の学習を兼ねるようになった。

筆者は，練習曲として「コンコーネ50番」(註1) を使用している。

コンコーネ50番の歌唱では，音名でのドレミ歌唱により，音程や音符の長さ，リズムの注意などソルフェージュ的な指導を行った後，一つの母音での歌唱により音の繋がりや母音の繋がりを意識したレガートな歌唱を指導し，最後に楽曲としての音楽的な表現の指導を行っている。筆者の希望としては，一人一人の歌唱の特性に合った適切な指導を行いたいが，限られた授業時間の配分では，学生全体に共通の指示を与え，各人が自主的な理解と歌唱の工夫を待つよう促すことが実際の指導となっている。

そのような中，コンコーネの各曲は指導された指示内容の理解を得やすく，様々な指導の工夫が可能であり，指示を行い易く感じられてきた。

コンコーネ50番による初心者の学習方法については，全音楽譜出版社版の「はじめに」の項で編集者の畑中良輔氏が，「（１）ソルフェージュとして使用する。（２）純粋の発声法のために使用する。（３）旋律の歌い方の音楽的な処理を学ぶために使用する。」の３つの方法に整理し，それらを習得するために「最低３年はかけるべきであろう。」と述べている。(註2)

筆者も初心者の理解力と成長の様子を鑑みると，３年をかける理想的な学習を望むが，現実には限られた時間の中で指導の工夫を行いながら半期の一授業あたり十数曲を歌唱するだけである。

以下に，初心者学生によるコンコーネ50番第１曲，第２曲の歌唱の様子と，それら２曲を使った指導の工夫を述べる。

コンコーネ50番：第１曲，第２曲の学習の目標

畑中氏はコンコーネ50番の学習について，「音楽的処理に関しては，ある程度音楽が理解できてから始めるべきであろう。」と述べ，「発声のために使うときには，声区の転換，声と息との適当なミックス，などを各母音でたんねんに試み，仕上げなければならない。」とし，ソルフェージュ的な学習では，その目標を問題として特にあげていない。(註2)

また，田中千義氏はコンコーネ50番の学習について，「学習者は,デュナーミク,アゴーギグ等の指示をよく守り,機械的な音符の長さ,高さを保つだけでなく,伴奏をよく聴いて,曲全体の作曲家の意図を理解し,あたかも歌の詩があるかのように歌い,その成果を上げたい。」(註3) と述べている。

本学の初心者学生の歌唱においては，しっかりとした大きな声を出して歌唱することが第一の学習の目標となっている。また，そのような声を出して歌うことができる学生にとっては，音程と音の長さの注意等，ソルフェージュ的な学習が目標となっている。特に，短い第１曲と第２曲での学生の歌唱は，どちらの曲も音階を歌うだけの単純な練習になるか，しっかりとした大きな声の出せる学生が，楽譜の中で目に付いた「クレシェンド（以下 cresc. と記す）」のみを標的に向かうかのように，声を張り上げてゆくだけの練習になってしまう。

この第１曲と第２曲の学習では，畑中氏，田中氏共に，「声区の転換の課題」のほか，「つっぱるような歌声」への注意，横隔膜の支えの意識過剰により「胸を堅くして喉でcresc.とディミヌエンド（以下dim.と記す）を歌わないこと」への注意を学習と指導の課題として上げている。(註2,3)

授業の中での学生の歌唱から考えられた次なる課題は，大きく声を出して歌唱できた初心者学生が，そのまま歌声を押し出すように歌唱し，dimを伴わないcresc.のみの歌唱になってしまうことにあった。

その原因は，歌声の立ちあがりが遅く，cresc.に向かう息の流れが遅れてしまうことにあり，その遅れを取り戻すかのようにcresc.をかけ，その結果，歌声の押し出しを生み出していると考えられた。

その「cresc.の歌唱」と「歌声の押し出し」の違いを気付かせ，自ら楽譜に合わせた歌唱表現の工夫をできることが，特に第２曲での指導の目標であった。

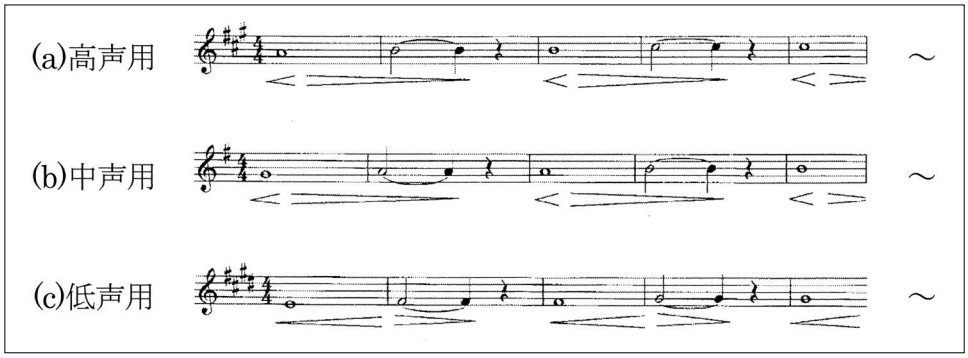
コンコーネ50番：譜例をもとにした第２曲の客観的な聴取と指導

「cresc.の歌唱」と「歌声の押し出し」の違いを気付かせるにあたり，言葉だけの説明にせず，視覚を伴った説明により初心者にも分かりやすく，見落とし（歌い損ない）等を少なくさせるのが筆者の考えであった。

例えば，コンコーネ50番の楽譜には，高声用，中声用，低声用の調性の異なる３種の楽譜があるが，その楽譜を並べてみると調性以外の違いを発見できる。

第２曲では，cresc.とdim.の記号の長さが調性により異なっている。（【譜例１】参照。）

【譜例１】強弱記号の違い

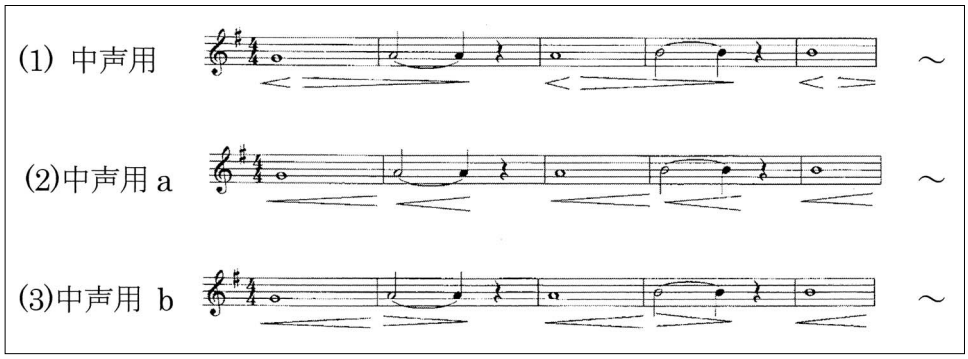


筆者はこの違いを，声種（歌声の音色や音質，声部）の違いによる，息の流れや歌声の動きの違いの表れと考える。すなわち，高声用や中声用を用いる学習者は，素早くcresc.とdim.を歌唱することを学習の目標とし，低声用を用いる学習者は，ゆったりとcresc.とdim.を歌唱することによりその声種の特性を生かすことを学習の目標とする。これら声種に合った歌唱のイメージを，楽譜から視覚により持ち易くなっていると考える。

この第２曲では，本来の楽譜は「譜例２－（1)中声用」の通りであるが，初心者学生の歌唱では，歌声を押し出すように歌う「譜例２－（2)中声用a」，または，遅い動きで歌

声を押し出す「譜例２－（3)中声用ｂ」のようになることが多い。(【譜例２】参照。)

【譜例２】学生の歌唱例



そこで，授業のために第２曲の旋律で強弱記号の異なる，a，b，２つの楽譜を作成し，その楽譜を眺めながら歌唱し，どちらが自分の歌唱に近いか，客観的な聴取を行うよう学生に指示した。(巻末「【参考】授業用プリント」参照)

その後，本来の正しい楽譜を見せ，その cresc.と dim.の意図するところ，強弱の変化を付けるために胸を堅くすることなく息を流し，それを素早く行うための早めの身構えや呼吸が必要となる等の指導を行い，これまでの学生の歌唱が歌声を押し出す歌唱であったことも説明した。

おわりに

以上がコンコーネ50番，第２曲における cresc.の歌唱表現方法についての初心者への指導の内容である。平成23年度前期の授業では，初心者を含む２年生11名が受講する授業で行ったが，全員が歌唱学習の目標への理解を示していた。

筆者は，今後も同曲による学習の試行を行い，初心者学生に歌唱表現の指導内容への理解を図り，更にコンコーネ50番の他の曲でも学習の指導を試みる所存である。

註　釈

（註１）Giorgio Concone（1801－1861）が作曲した声楽教則本。「コンコーネ50番」（中声用）畑中良輔編，全音楽譜出版社，2000年４月５日（第１版192刷）を使用。

（註２）畑中良輔編「コンコーネ50番」（中声用)：全音楽譜出版社，2000年４月５日（第１版192刷)「はじめに」を参照。

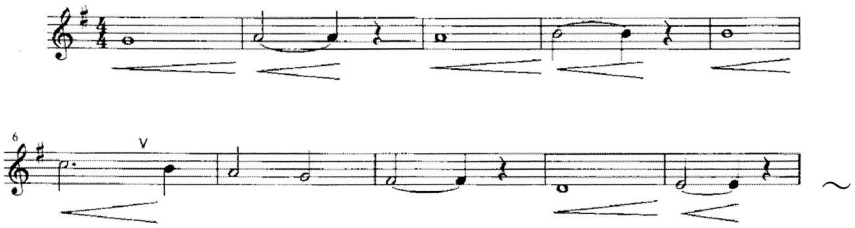
（註３）田中千義「コンコーネ50番の歌唱法」：熊本大学教育学部紀要　人文科学，41：69－78，1992－09－30，http://hdl.handle.net/2298/973。

【参　考】授業用プリント

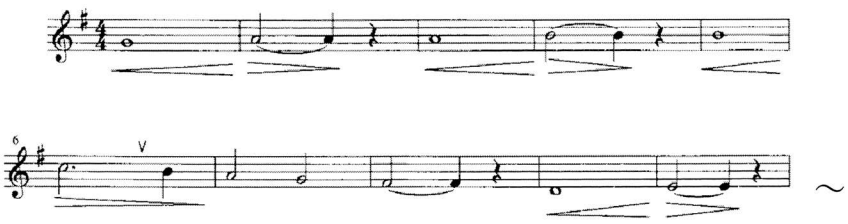
CONCONE 50 番（中声用）No.2　練習のポイント

≪どちらの楽譜に近いですか？≫

a



b



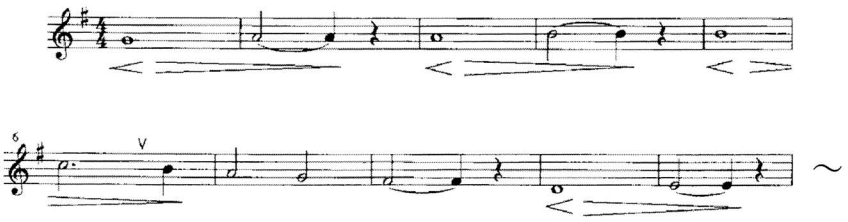
回答

（折り線）

※　「a」の人：歌声を押し出していませんか？

→歌声を押し出さずに、柔らかく！

※　「b」の人：歌声が遅れてませんか？

→準備を早く、流れに乗って一気にクレシェンドしましょう！

（正しい楽譜）